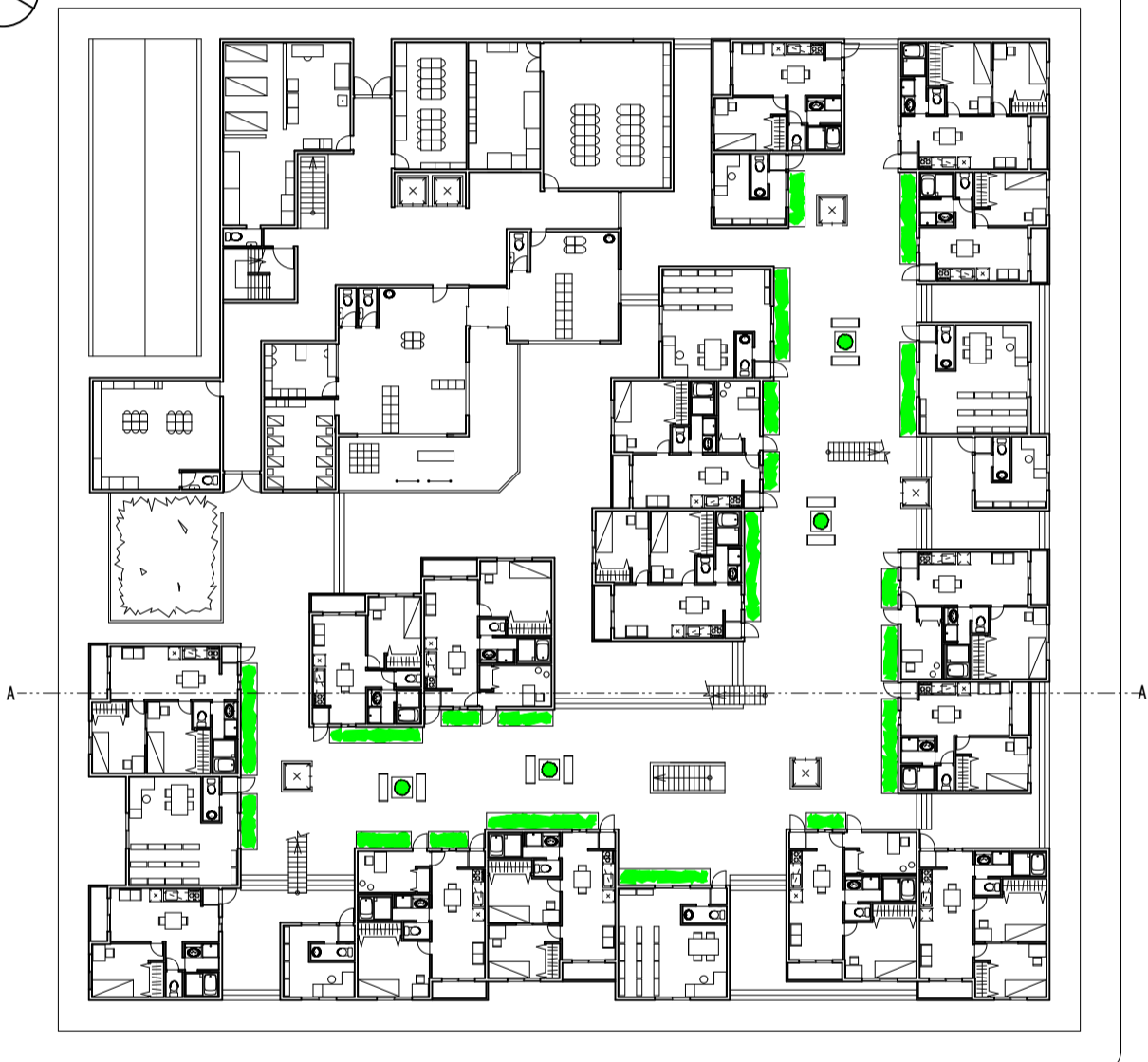


日常の賜物

～交流を促す福祉施設併用集合住宅～

少子高齢化の影響下には単独世帯や共働き世帯、高齢世帯が増加して世帯数の増加及びライフスタイルの多様化が顕在している。単独世帯は孤独死、子供のいる共働き世帯では子の教育に時間を費やせないこと、高齢世帯は怪我や病気のリスクが高まるといった問題が挙げられる。そこで児童・高齢者福祉施設を併設させた、繋がりを持った集合住宅を提案することでこれらの問題を解決させ、異なる価値観の蓄積された独自の空間が生まれる場所となる。

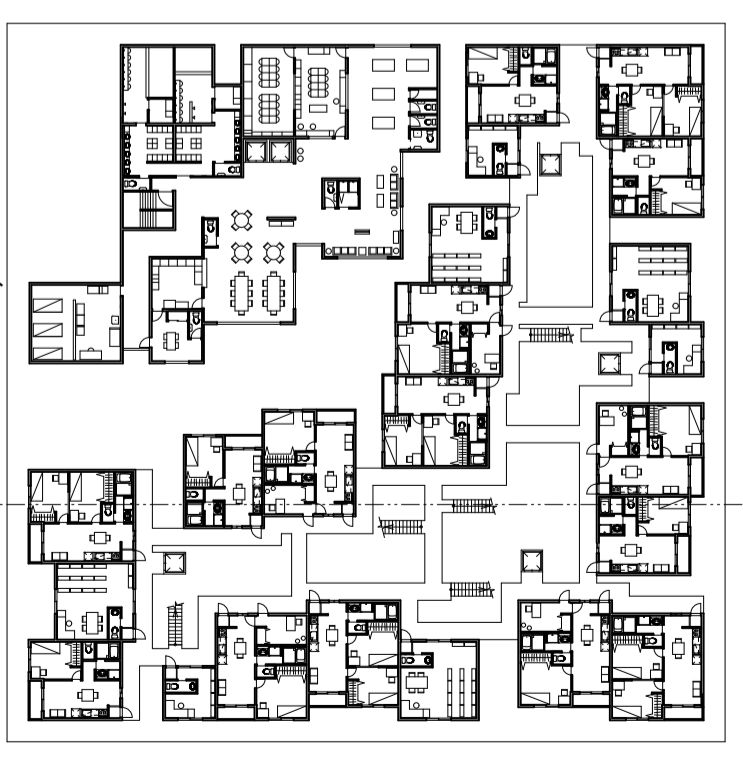
敷地：50m × 50m
構造：壁式鉄筋コンクリート



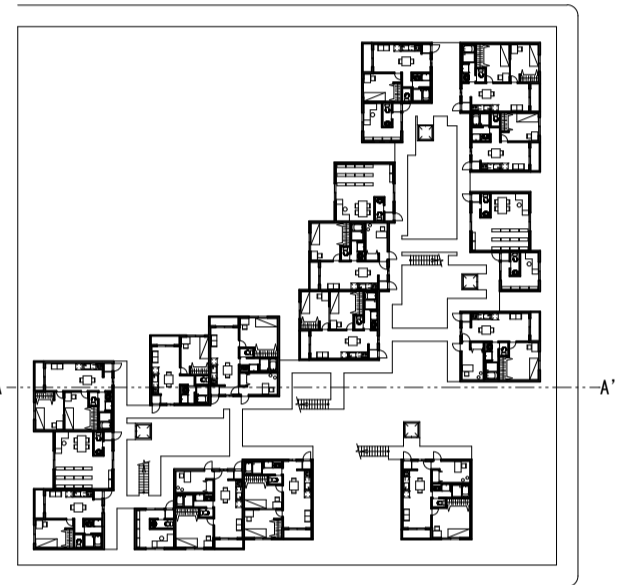
1階平面図 1/100

ライフスタイルの多様性を持たせるために限られた住戸ユニットのみを提案するのではなく、家族構成に合わせていくつかの間取りを考案し、それにプラスして住戸と併用して利用できるものにする事でそれぞれの世帯が住むための住戸ユニットに加えて好みに合わせた自由な空間を利用することができる住まいの空間の提供が可能となり、だれでも住まえるプランを考案。アネックス(離れ)の空間では、趣味の空間に加えて、パソコンの普及によって会社勤務しない業務形態にSOHO機能があり、ライフスタイルの要素として、この空間を設けることを考えた。

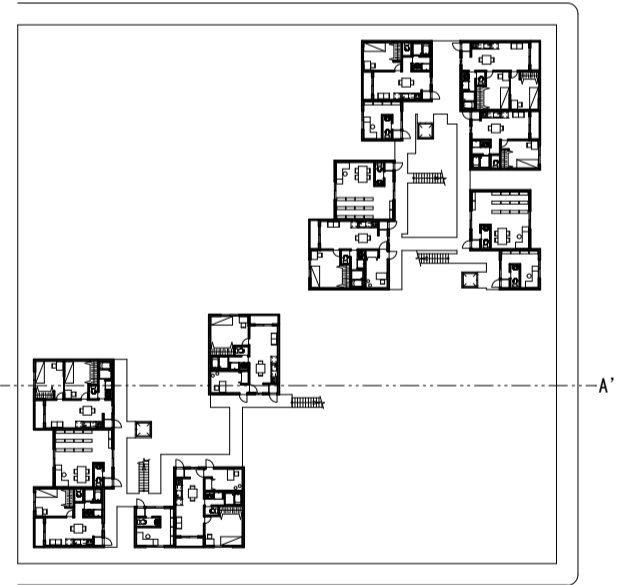
保育施設に子供を預ければ子供の面倒をする負担の軽減につながり、子供の預け親同士で近所付き合いも生まれる。高齢者が日帰りで介護を受けられるデイサービスを通して、孤独の防止やストレスの軽減につなげて、この集合住宅に住む人だけでなく、外部の人もこの福祉施設に集うことで様々な価値観を共有し合える外部に開かれた空間となる。その価値観はこの場所で蓄積された日々の賜物となる。



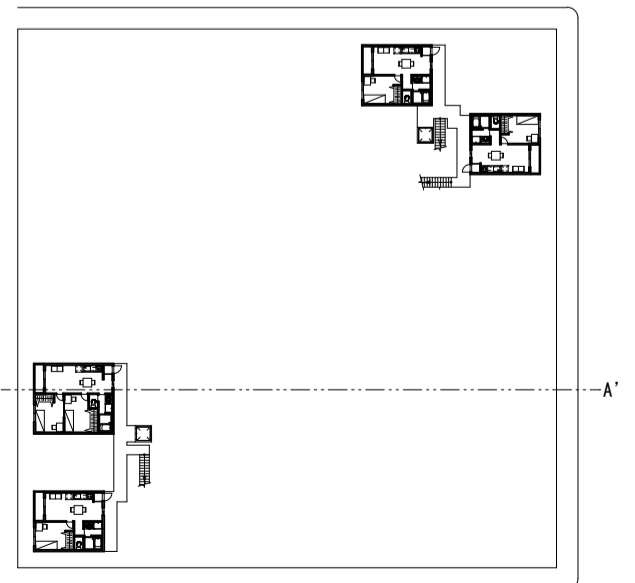
2階平面図 1/100



3階平面図



4階平面図



5階平面図

ダイアグラム

集合住宅部分

敷地境界線から段差を設けて集合住宅の内と外にメリハリをつけた。段差の上り下りを所々に構成することで立体的な路地形成に加えて、視線の変化を与えて飽きさせない空間にさせる工夫を取り入れた。

外構廊下は住戸の玄関回りで繋がれていて、最上階の導線として玄関アクセスはそれぞれの住戸に対して階段を配した。外部階段の構成はラビリンスの集合住宅を参考にしてみる角度から階段が入り組んだ構成に仕上げた。住戸の階数は南側を少なくすることで採光に気を配りながら立体的に構成させた。隣り合う住戸と階数を合わせずに構成させることで立体感が生まれ、立面での印象を強く与えるものとした。駐車場は敷地を占有するので地階に設ける計画として、住戸ユニットはより多く配置できるものとした。また、北側配置にすることで住戸を南側に配置ができて採光が取れる無駄のない配置としました。

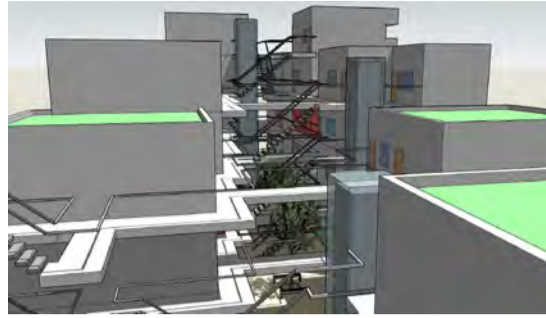
上空から俯瞰したときにできる外部廊下と渡り廊下の囲まれた空間に木を配置して木を背を向ける形でベンチを配置させた。

住戸の屋上は緑化計画として屋上階の断熱性能を高めた。

一階住戸の玄関回りは小規模の花壇を設け、玄関前の空間を作った。そうすることで、玄関前を人が通過することがなく、玄関の開閉による衝突を防ぐようにした。また、路地デザインにも印象を与えさせる。

外観デザインは上下階で反転した住戸を持ってきて開口部をシンメトリー仕上げた。一部の住戸ユニットは共有スペースに当て、シェアすることで住人どうしが自然なつながりを生む空間となっている。

外からわかりやすいように壁面は暖色を用いて視認ができるものに仕上げた。



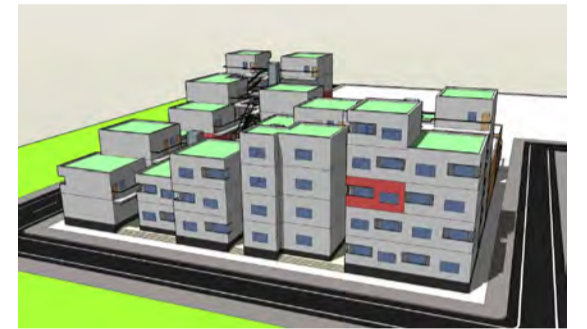
外部廊下・階段のシーン



路地から見上げたシーン



路地シーン



外観パース

福祉施設部分

初期構成としては集合住宅ユニットをそのまま福祉施設に反映させて平面での構成に統一感を持たせた形とした。

そのユニットに各室を当てはめていくが、ユニットによりそれぞれの空間が孤立し、閉鎖的なものになるので

利用のしやすさを考え、構造体の一部を透明化させることで空間につながりを持たせてかつ移動がしやすい形に仕上げた。

家族構成と交流を生み出す住戸プラン

敷地の中でそれぞれの世帯が混ざりあいながら多くの住戸を配置することによって、偏りのない交流を促すことが可能となる。

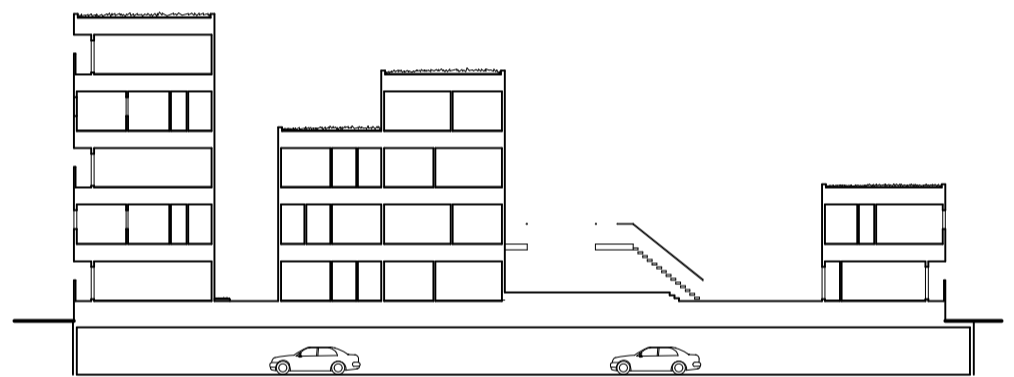
複数の間取りプランとして5パターンの住戸ユニットを計画した。

間取りは機能性を重視した計画とし、家族構成は単身者、共働き、高齢者の世帯で考案し、適当な間取りに当てはめていく。

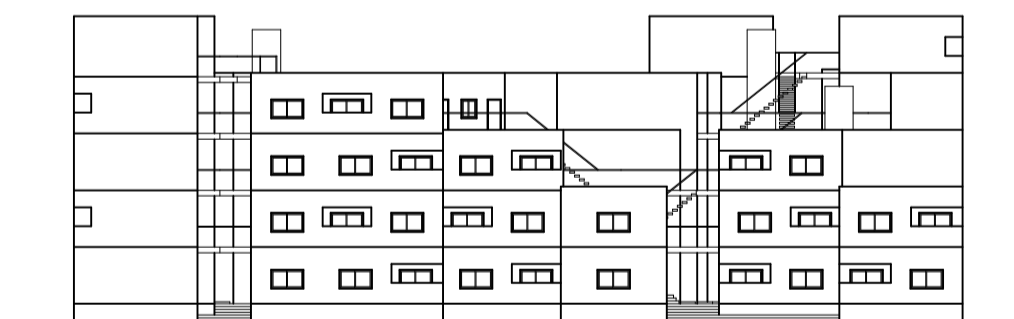
単身世帯 → 1LDK 共働き世帯 → 2LDK 高齢者世帯 → 1LDK or 2LDK

3LDKのプランは住戸ユニットが大きいので、敷地に多くの住戸を配置するのが困難なため、今回の計画では考案しないものとした。

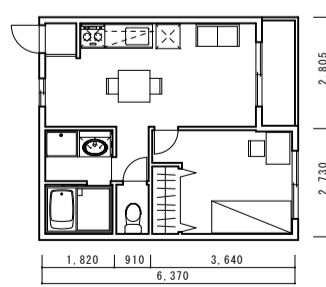
住戸空間では水回りを集約し、バルコニーのある上部は通風管理が可能である。バルコニーは最低限の大きさと部屋の広さを優先した間取りとなっている。f(フリー)ルームはSOHO機能として活用できる他、趣味の部屋としても利用が出来る。寝室は採光の取れる部屋を窓際に配した。2LDKの窓際に面していない部屋は間仕切り部分に開口部を設けることで採光・通風を確保できる。部屋どうしでプライバシーが確保できないので、上部は引き戸にして下部は視認性の低いF窓とした。



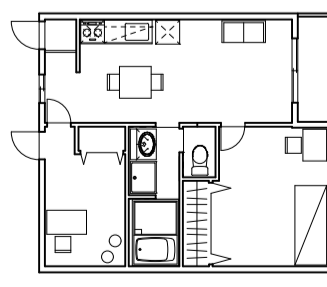
A-A' 断面図



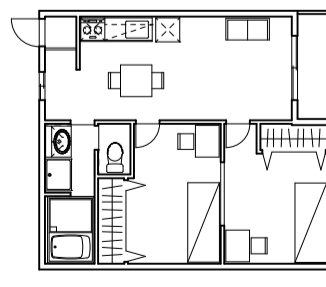
南西立面図



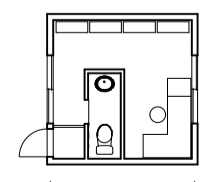
1LDK



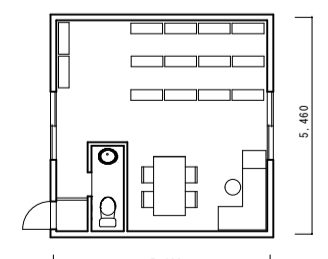
1LDK+f ルーム



2LDK



アネックス (小)



アネックス (大)